



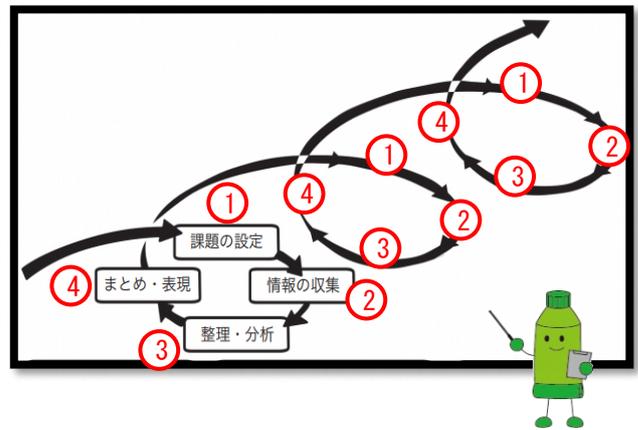
確かな学力の向上をめざして【7月】

「総合的な学習の時間」がめざす学びとは？

総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、子どもの実態に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすること、探究的な学習や協働的な学習とすることが重要です。つまり、現学習指導要領の改訂の趣旨の一つである「カリキュラム・マネジメントの充実」には、総合的な学習の時間を軸に、各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントを行うことが必要となります。改めて、自校で実施している「総合的な学習の時間」について点検してみましょう。

総合的な学習の時間の「本質」とは？

一言で表現すると、「**学習過程を探究的にすること**」といえます。「探究」とは、図のように「問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく一連の学習」のことです。4つの段階が連続・発展的につながり続けます。このプロセスの主体となるのは、もちろん子どもです。しかし、実際にはこのような学習過程の実現が質的にはまだまだ十分ではないと全国で報告されています。以下、探究的な学習の過程を実現していくためのポイントを確認してみましょう。



探究的な学習の過程：各段階のポイント

- ① **課題の設定** ➡ これまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」を感じさせるなど、学習対象との関わり方や出合わせ方を工夫すること。（教師が一方向的に課題を提示する学習のスタートでは、子どもの主体的な探究にはつながりません。）
- ② **情報の収集** ➡ 子ども自身が情報収集の手段を幅広く使いこなせるだけの選択肢を広げていけるよう、情報収集の多様な手段を経験できるようにすることが大切です。
- ③ **整理・分析** ➡ 集めた情報を子ども自身が整理し分析できるようにするための重要なポイントは、「**考えるための技法**」を獲得させることです。そのためには、思考を可視化する「**思考ツール**」の活用がとても有効です。
- ④ **まとめ・表現** ➡ 子どもの実態や強み、「この方法で伝えたい」という願い等を大事に、教師の意図を織り交ぜながら、子どもとともに選択していけるとよいです。

Point

学習過程を連続・発展させるには、「まとめ・表現」後に行う「**振り返り**」が鍵となります。子どもの新たな気付きや問題意識を、次なる課題へとつなげていけるかが重要なポイントです（**課題の更新**）。また、上記の各段階において子どもが活用するスキルや学び方等は、各教科等において経験を積んでおくことが重要です。総合的な学習の時間と各教科等とを相互に関連させる視点を持ちましょう。



★今号の具体的な事例やポイント等、詳細はこちらでチェック ➡

『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』（文部科学省）

- ① 小学校編（令和3年3月）
- ② 中学校編（令和4年3月）

